現代国語における表現の問題

（話すこと）

―高校1年の場合―

鈴木洋一郎

一　まえがき

国語科における表現指導の位置づけはどうか……現代国語における表現指導は事前の準備や事後の評価などに時間と労力を要し教師の好みもあり，所謂読解中心の学習と比べて軽く取り扱われ国語教育の一つの盲点とも見られている。年間授業数の$\frac{1}{10}$程度が望ましいとしている「聞く・話すこと」の授業時間も教科カリキュラムの中で計画的に編成されていないのが実情ではあるまいか。学習指導要領によれば「聞く・話すこと」はいずれも「読む」の学習と関連すべきであるとしているが，「話すこと」に対する学習指導はまだ十分に確立されていない。国語科においては「ことば」が教材として使用され，また媒材として学習指導の間に伝達され理解されている。特に「話しことば」は「書きことば」と比べて表現されるという点で積極性があり，音声をもつという点で感覚的である。このように直接的であり具体性があるから，相互に人格的な接触をもつことができ更に社会的な適応性を養いうるのである。「話しことば」の正しい表現と技能を学ぶことは言語生活の向上に必要な国語能力を高めるという国語科の指導目標の一つと考えられるのである。「話す」場合には作文の場合と同様に話題の理解や構想の立てかた，展開など所謂表現内容が問題とされ，「読解・鑑賞」の学習も「書いたり」「話したり」するという表現活動によって理解が正確になり鑑賞も深まり，完結するものである。ここに国語科における表現指導の位置づけができると思う。

表現指導についての二つの問題……まず，**問題**は表現指導が二つの観点から考えられるということである。一つは表現内容，もう一つは言語表現の指導である。話題の選択・主題の設定などは表現活動前の前者に関するものであり，これをいかに正確にかつ明瞭に表現するかは後者の問題である。表現の形式よりも内容の指導を重視する傾向もあるが，「話しことば」の指導においては後者の言語表現に視点を置いて実践の経過をまとめることにした。

次の問題は表現指導を困難にしているものは何かということである。まず生徒は「話すこと」への興味は少なくその意欲も低調であるということ。次に表現の記録はむずかしいということであり，結論的に生徒の言語生活指導はむずかしいということである。

1.　表現意欲の低調……友人知人との雑談や私語の活発なのに反して，生徒は概して授業中は応答や発言には消極的である。この年代は彼らの置かれている話しの「場」によって影響され自己表現という外向的な行動よりも沈思，冥想とか独白・空想という内向的な傾きを示し，例えば授業中の公話するときもその発表意欲が低調になりがちである。

2.　表現記録の困難……「話す」という言語活動継起的であり，その「場」の雰囲気とか話し手や聞き手の心理にも左右されるので，この活動を文字や音声などで記録して生徒個人のことばの実態を把握することはむずかしい。（この研究には国立国語研究所「談話語の実態」という報告がある）録音機などの視聴覚教材の利用によって記録効果はあげることもできるがまだ十分とは言いがたい。

○言語生活指導の困難……生徒たちは授業を通しての教師から言語生活の指導をうける立場にある。そして意図的に指導を受けることもあるがまた無理解，無関心さからくる指導では彼らの表現活動を弱めてしまうこともある。言語生活の長い時間の中で国語科の占める時間は誠に短い。自由に話しやすい「場」や「時間」を設けることはむずかしいのでこの種の指導は時間の浪費とか非能率的ともなり，効果はあがらないことになる。

これら二つの問題は表現指導についての困難点であってその解決は漸進的でなければなるまい。即ち「話し」やすい「場」をつくり，その記録の資料を整えながら言語生活の実態を把握しようとする方向であろう。言語教室は表現活動の教材を学習指導する場のテストケースとして以上の課題をもって設計された。

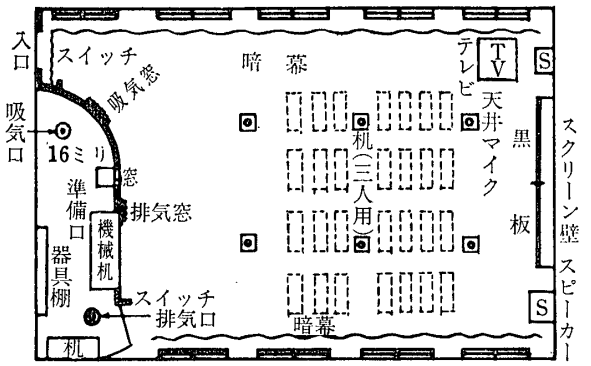
二　本　　論

1.　表現指導と言語教室の利用

（1）　言語教室の設備と教材

言語教室は語学教育の所謂“L・L”ではないそれは国語科における言語活動の教材を容易に使用しながら学習指導することができる教室という意で，視聴覚教室にも兼用されるので多くの視聴覚教材を備えているセンターである。ここでは表現指導に関係のある点についてその概要を紹介する。

1.　教室の略図と概要



面　　積	138.24m²	（含準備室）
収容人員	約150人	（学年定員）
換　　気	8.13km³/H	（送風機２）
照　　明	平均照度 180 ルックス（安全灯下 15 ルックス―映写のとき）	
防　　音	二重窓になるように設置	

2.　視聴覚教材（関係分）

（2）　言語教室の利用と表現指導

1.　「話しことば」の録音・再生・指導

録音　授業中の教官や生徒の言語活動（話しことば）は天井に固定してある６箇のマイクから準備室の６点ミクサーに集まり録音機にはいる

再生聴取　録音を「再生」にスイッチするとアンプを通して教室正面の２スピーカーから，録音されたことばを聴取することができる。

指導　準備室から指導するときに解説用のマイクを用いる。このマイクはこのほかに放送や朗読練習や電話のかけ方にも容易に利用できる。

2.　利用できる表現活動

- 弁論（公話）討論・会議・研究発表
- 劇（演劇・放送劇）……読み合せ，リハーサル
- 授業研究……ことばを録音し教官の授業反省や教生の研究授業の指導に利用する。
- 文化クラブや生徒会議の活動にも利用されている。

2.　現代国語における「話すこと」の指導

（1）　実態調査

生徒の話す態度や技能に対する関心・興味の程度を調査してあらかじめ「話しことば」の実態を把握していることは，表現指導を進めるために必要なことである。このために次のことがらについて調査した。

最初は高校入学後で，中学時代の「話しことば」の関心ついて調査し（**A表**）次にはグループ学習による発表活動後，言語表現上の困難点やそれに対して努力したという経験を記入させた。（**B表**）

教　　材	名　　称	数	用　　途
マイク（ダイナミック）	ソニーＦ８７	6	天井に固定　録音
ミクサー		1	６箇のマイクコードを同時加入
録音機	ＴＣ―７７７Ａ ソニオマチック　７	1 2	固定用 移動用　録音
アンプ	トリオＷ―３９	1	録音・放送・レコード音の増幅
スピーカー	トリオＳＣ―５	2	ステレオ用　聴取
マイク（クリスタル）		1	解説・指導用など……準備室におく
レコードプレーヤー	ニートＮＰ３２１	1	音楽
電話機（磁石式）		2	練習用

（2）　指導の一例

グループ学習による発表活動は次のような方法と順序によって指導した。

A．作品のあらすじをまとめてわかり易く話す。

B．グループの中での話し合いで，登場人物の性格や心理，叙述の特徴や主題などについて理解した結果を発表し話し合う。

C．グループ間での話し合いで，共通の話題を設定し，それぞれについてグループとしての意見を述べて討論し合う。

教材として用いた作品はAとBの場合は長編もの（Aは一市井人の少年時代の思い出，Bはある科学者の炭疽病菌発見までの研究生活）で，Cは文学作品の比較的短編もので芥川と直哉の小説であった。

（**C表**は直哉の短篇小説（鵠沼行き」についての指導の一形式である）

表現形式としては，Aは1対衆の公話で，Bは1対多の討議であり，Cは多多の討論であった。しかし話し合いを活発にすすめるためにこの形式にはあまり拘泥せず自由にさせることにした。

（A　表）

中学時代の「話しことば」への関心についての調査

対　象　　高校1年　150名

時　期　　入学して間もなく

調　査　項　目	%
1.　大ぜいの前で話すことの好悪	
好　き	14
嫌　い	42
どちらでもない	40
好きの内容	
◦中学の時に生徒会役員に選ばれ話すのに慣れていた	8
◦大ぜいの前でひとり話すのは気持がよい。	2
◦意見の発表で考えが整理されるから大いに発表すべき	2
◦大ぜいの前で話すとき注意している三点	2
1.　初めと終りに話の要点を言う。	
2.　みんなの方をつとめて見る	
3.　親しみやすい態度でしゃべる	
嫌いの内容	
◦性格が内気で消極的である。	20
◦自分の意見がない	4
◦話し方に自信がない	20
◦クラスの空気が沈んでいるので（へたなことを言うと軽蔑されそうなので）	10
◦高校入学後に自信喪失・発言慎重	6
◦用意した話はよいが即席の話はきらい	4
◦親しい間で話すのは好きだが改まった席では嫌い	4
2.　中学時代の話すことについての思い出	
好きの内容	
◦演劇や舞台で度胸もでき割合平気だ	4
◦生徒会の役員をやっていてよく発言した	16
嫌いの内容	
◦中2の時応援演説中，あがって「あの一」を連発してから嫌いになった	2
◦先生に叱られてから恐怖心を持った	2
3.　H・Rや授業時における発言についての反省	
◦積極的に発言したことは殆どない	20
◦できるだけ発言しようと努力している	2
◦発言しようと特別に努力してない	8
◦発言を抑える雰囲気を解決しよう	24
◦予習していないので発言できない	16
◦周囲の発言が低調であったので言いにくい	4
◦劣等感をもち消極的になった	14
◦うまく言えないので他人を意識しすぎる	18
4.　グループ学習をどう思うか 短所と長所	
短　　所	
◦非能率的・時間の無駄	18
◦授業内容が浅くなる	4
◦あまり意味なし	4
◦親しみやすいためふまじめなる	8
◦一部の人が無責任になりがちである。	4
長　　所	
◦少数なので自分の意見が発表しやすい	20
◦他人の意見がわかるのでおもしろい	4
◦分担がはっきりしているから真剣になる	8
◦話し合いがうまくなり協力の精神を養うことができる	7
◦構成メンバーを考えればよい	12
5.　発言を活発にするためにはどうしたらよいか	
◦授業中の指名を多くする	24
◦クラスの雰囲気をもっと明るくすればよい	20
◦みんなの努力次第で活発になる	14
◦グループ学習を多くせよ	6
◦一度みんなに話す機会を与える	4

（注）　この**A表**は本校の佐藤教官が調査し集計したものを掲載した。

（B　表）

話し合いの困難さと努力点についての調査

調　査　項　目	%
1.　話題・材料の問題に困難さがある	
◦材料のまとめ，内容の理解が不十分	15
◦発表の順序や整理が不十分である	6
◦相手と話題を合わせるのがむずかしい	3
他人の意見を要領よくまとめ自己のと異同を考えながら話すのがむずかしい	
2.　対人関係の問題に困難さがある	
◦**発　言**	
①　内容への不安　正しいか，否定されないか	4
②　反応への不安　理解してくれるか，どう考えるだろうか　不安・自信・確信がもてない　笑われはしまいか	11
③　「場」の雰囲気　うちとけられない　劣等感・てれくさい・恥しい	9
◦**相手の態度**　注意が集中されてあがる	4
支配的な発言に押される	3
相違すると同調して発言が困難になる	2
よく聞いてくれない，非協力的だ	2
3.「ことば」の問題に困難さがある	
◦**発音（声）について**	
小声・早口・アクセント	4
同音異語が理解されたか	2
録音を意識してしまう	1
◦**用語について**	
適切な用語が浮んでこない	13
言い出しや言葉の省略のしかたがまずい	2
指示語や接続語の頻用してします	3

1.　話題材料の問題についての努力点	
◦資料をまとめ内容を十分に理解しよう	13
◦発表の順序，要点などを簡潔にメモしよう	18
◦多読して話題を豊富にもとう	3
2.　対人関係の問題についての努力点	
◦**心理的な面について**	
自信をもって話してゆこう	15
客観的にそして冷静に話そう	5
積極的に気軽に話そう	10
独自の思想をもち他人を気にせず話そう	4
◦**「場」の雰囲気について**	
雑談形式のようにして話そう	4
協力的・否定的にならぬように話そう	6
相手の立場を考えて聞きかつ話そう	2
3.「ことば」の問題についての努力点	
◦**自己の発声・発音について**	
大きく口をあけてゆっくり話そう	9
間をおいてはっきりと話そう	4
公話・朗読練習を事前に聞いてもらう	4
◦**用語・語法について**	
会話的なことばを多く用いよう	4
漢文的な難語や独特の癖を避けよう	7

（C　表）

グループデスカッションの一形式

「志賀直哉の小説鑑賞について話し合いをしよう」

グループ内で準備した資料に基づき話し合いを進める

他のグループの話しをよく聞き，自グループの考えを正しく伝えるデスカッションとしてのルール（まとまり）に従ってゆく

グループデスカッションの経過

〔A・BとはA班・B班〕

一　デスカッションを始めよう

二　デスカッションの注意

1.　進行に対する協力

2.　発言上の注意

3.　発言の順序方法

A．提案　　B．質問

A．補足　　B．討論へ

4.　時間

15分

三　デスカッションのテーマ

1.　小説とは

①　A．定義・要素・その種類

B．討論・質問

②　A．小説鑑賞のしかた or 鑑賞とは

B．同上　質問　討論へ

2.　志賀直哉の作品「鵠沼行き」を鑑賞しよう

①　A．略歴，特にその性格がどんな作品に影響あるか作者と作品との関係（作品名をあげる）

②　B．あげた作品についてのあらずじ（テーマ）

25分

③　A・B　志賀文学の特徴　まとめてゆく
④　「鵠沼行き」を鑑賞しよう
作品について　時代　作者のどんな時代にあらすじ　―3段に分ける―テーマ及び全体の感想　描写などで
⑤　この小説にあらわれた文章の研究
文章の特徴
四　まとめ　感想と反省

(3)　指導・調査の問題点

「話し合いの困難さと努力点」について生徒の調査をまとめると次の通りである。

発表の準備において，材料のまとめかたや話題内容の理解が不徹底であったために発表に自信をなくしている。ここに表現内容の指導のむずかしさがあり，また第一に考えなければならぬ問題があろう。

次に対人意識であるが，この年代に多くある自己への意識が話すときのつまずきとなっていることがわかった。話題の乏しさとか表現技術の稚拙さよりもまずこの心理的な障害を取り除くためにどのように指導するかが第二の問題である。

「ことば」の問題は国語学習の大きな課題である。音声学的にも語法的にももっと共通語教育を徹底しなければならないと思う。

(4)　「話しことば」指導の実践とその問題

(一)　指導の目標

二回の実態調査の結果，「話しことば」指導の目標として次の三点が考えられる。

A．話すまえに内容をよく整理しそれを原稿用紙に書かせよう。

原稿作成に当っては，その上欄には内容の要点を書き，また文末の別欄には要旨や主題などを簡潔にまとめさせる。

B．「話しことば」と「書きことば」とを比較してそれぞれの表現上の特徴を理解させよう

生徒には公話したあとで，その話しの録音や他人の感想を聞かせて，草稿のことばと比較して話しことばの特徴をまとめさせる。

C．対話においては，話しの目的を考えながらくふうして話し，聞き手から望ましい反応を得るようにして対話全体を効果的にまとめさせよう。

ここでは公話での同じ話題を個人（聞き手）に対して話しかけ，聞き手の問いに応じて話しかえすのである。この対話では聞き手は演出者にあり，あらかじめ筋書き（原稿の内容）を理解しており，話し手が十分に話せるように協力する。

(二)　指導の展開

まずグループを編成。無作為で5人一組のグループ10班をつくった。

◦**表現目的を与える。**それぞれのグループに五つの表現目的を与え，その発表の方法について目的別に指導する。五つの表現目的とは

1.　（あることがらを）報告する。
2.　（ある事物について）説明する。
3.　（ある感動した体験を）伝える。
4.　（あることがらを）主張する。
5.　（ある行動することを）促す。

（この分類には本学部助教授上甲幹一氏の「現代の話し方と文章」の中の「実生活での話す目的」を参考にした。）

◦**グループの学習活動。**表現目的にふさわしい話題（別表）を考え，構想を立てて発表原稿を書いた。また同時に自己の「話しことば」を注意して聴取したり用語や言いまわしなどを記録するもの（モニター）2名をグループ内で互に選定しておくように指示した後，次のような発表の方法をとった。

1.　**読み合い。**書いた原稿の文章をグループの中で読み合い，表現内容を理解させて感想を求めた。

2.　**公話**　クラス全員の前で話した。3分以内。この話しはすべて録音されたが，2名のモニターは，あらかじめ配布されてあるメモ用紙に，話題及び話しの内容や特徴のある「ことば」について要点的に記録しその評価をも考えさせた。そして表現目的に合った「話し方」をしているかどうかは随時に指導した。放課後に録音を聞いて自己の「話しことば」を反省し，また「モニター記録」を整理させた。

3.　**対話**　電話で話しかたを指導した。モニターの1名が聞き手となって対話したが公話と同じ話題について表現目的に適うように話し方をさせた。2人の対話は録音され（電話ピックアップ使用），同時に準備室にいる話し手の「ことば」は教室のスピーカーで聴取できた。この録音を聞いて公話の「話しことば」と比較しながら対話の運びや自己の「ことば」の特徴を考えてよい対話のあり方を学ばせた。この学習においては，誠意をもって相手の話しを聞き，協

力して話しやすくすることが互のコミニュケーションの道を開くことであり，これによってスムーズな対話が可能であることを学ばせた。

表現目的別話題（一部抜粋）－生徒の作品より－

説明をする	わが母校　文鳥について 富士の名まえ　秋の花 万国博について
報告をする	クラブの活動状況 国連総会から帰りて　名大祭を見て （クラブ関係の報告が多い）
感動を伝える	琵琶湖学園を訪ねて　山上の美観 公園である光景　すばらしい星空
主張をする	協力について　人生　自由と規律 現在の世界平和　英語の氾濫を嘆ず
行動を促す	発言をしよう　クラスの団結を 車中での態度　読書のすすめ アマチュア無線技師になろう

（三）　指導後の調査

指導後，次のような「モニター記録」用紙に記入させ生徒自身のことばの特徴やその評価を調査した。この自己評価は“精華学園ことば実験室”作成の項目を参考にした。

モニター記録　表現目的（　　）　グループ（　　）　氏名（　　）

	※ことばの特徴			項目	評価の項目	評価 A	評価 B	評価 C
自己のことばに関する記録（記録を関して）と評価		態度		姿勢・動作	固くならず自然			
				表情・目	聞く人を見ている　自然			
				落ちつき	まじめでおちついている			
		声		大小	聞き手に応じてくふうした			
				明瞭さ	正確ではっきりと聞きとれた			
			変化	強さ	度合・適当・内容にふさわしい			
				高さ	変化あり　〃			
				速さ	〃　〃			
				調子	一音一音正確			
				間	意味の段落に適当に間を			
		ことば		選び方	個性的　印象的			
				言い回し	わかりやすく筋が通っている			
		内容	組み立て	前おき	話し出しがうまい			
				本論	内容がしっかりしている			
				結び	うまくまとめた			
				長さ	適当・与えられた時間内で			
他人のことば	氏名（　　）							
他人のことば	氏名（　　）							

この「記録」の中の※「ことばの特徴」とは　1. 婉曲的な言い廻し　2. 感動の表現で，感動・間投・感嘆・強意などのことばづかい　3. センテンスの長さ　4. 接続語の使用　5. 敬語　などに注意して書かせるようにした。

この調査の結果は後記の生徒の文例にもあるが，全体的に副助詞の“など”接続助詞の“けれども”“けど”“が”（清水氏の「無規定的直接性」のもの）などのもつ婉曲的表現は予想通り多い。感動の表現は女子に多く用いられ，またセンテンスも一般に長い。終助詞の「ね」「よ」，念を押すときの「……でしょう」という名古屋地方独特の間投詞的な語も多い。多数の生徒が接続語には「あのー」を用い「ほんで」「うんと」「ええーんと」「だけどさあー」のような語も割合に多い。公話のときは方言が非常に多くなることも国語指導上考えさせられる大きな問題であった。

生徒の書いた「モニター記録」の中から二・三その例を挙げてみる。

モニター記録の文例

1.　（主　張）

> 文章で主張するほど口で言うのはやさしくなかった。言いたいことはたくさんあったが，いざしゃべるとうまく出なかった。そのため話題の省略が多かった。敬語は全く使わず，「…たね。」「…だから」ということばを使った詠歎的なことばはなかった。　（A君）
>
> 話し方は落ちついてはっきりしていてわかりやすい。ことばづかいは話しかけているようで実感がわいた。「～ですね」が多い。
>
> （A君の話しに対するB君のモニター）

2.　（感　動）

> 少し姿勢が悪かったようだし途中で少し脱線してしまった。あまりこれも言おうあれも言おうと思ったので言いたいことがはっきりと伝わらなかったようです。もっと感情をこめて目を皆に向けて話せばよかった。よく使ったことば――そので，　（C君）
>
> 「その」と「で」をよく使った姿勢わるく要旨がつかみにくかった。内容はぼくにも共感するところがあった。
>
> （C君の話しに対するD君のモニター）

3.　（報　告）

> “エート”などその類のことばが多い。また言い廻しが整理されていない。省略はなかったようだがセンテンスは少し長めだった。声はやや大きい。　（E君）
>
> 接続語が多くて文の長さが長くなる。文の終りはもっとはっきりとした方がよい。しりきれとんぼであいまいである。自分自身に話しかけるようなふうで相手にはっきりと重要なことはもっと強調する必要がある。声が大きくてよくわかったが相手を納得させるためか「な」という語を用いたがこれは余り品もよくないからやめた方がよい。
>
> （E君の話しをモニター）

4.　（行　動）

> 自分が言おうとしていることに合ったことばが仲々見つからぬ。ことば流暢に出ないでとぎれてしまう。センテンスが長すぎる。省略も多く，私の考えていることがうまく伝達できず内容が抽象的になってしまう。　（Fさん）
>
> センテンスは長い。それで→そいで，時々考えて「ウーン」と言う。
>
> （Fさんの話しをモニターする）

5.　（行　動）

> 教壇に立ったらあがってしまったので原稿の内容を省略したところが多い。原稿を読むのと人前で話すときのちがいがよくわかりました。内容上婉曲的な語法を多く用いたが詠嘆的なことばはなかった。話すことを前提として書いたつもりであるが，作文調になってしまった。
>
> （Gさん）（モニター略）

三　あとがき

表現指導は確固たる共通語観と周到な準備のもとで継続的にかつ研究的にすすめ，しかも根気の要る指導の一つである。最初は録音の方法も状態も十分でなくまたその資料も整備されていないのが現状であるけれども，生徒個人の話しことばを注意して記録し，そして豊富に集めることから出発せねばならない。この視聴覚教材を利用しての対話指導は一つの実験的な試みにすぎない。そしてこの試みを通して我々が生徒の話しことばの生活に接することのいかに少ないかということが痛感させられた。対話中に自然と頻りに用いられている方言――このことばは発音からも語いからも指導上考えさせられる大きな問題である。現代の言語生活に適応し，かつ改善しようとする習慣と態度とを生徒の心に養わせることは国語科の目標でなければならないと思う。話しかたの指導に視聴覚教材の利用は初歩の段階であるかも知れないし，この指導については反省させられるものが多い。大方の御教示をいただければ幸いである。